



連携室だより

—地域に愛され、地域と共に—
岩手県立二戸病院地域医療福祉連携室

〒028-6193 岩手県二戸市堀野字大川原毛 38-2
TEL:0195-23-2191 URL:<http://www.ninohe-hp.net/>



No.13

発行月 令和6年10月

～ あいさつ ～

地域医療福祉連携室長 高橋 浩



皆さま、こんにちは。二戸病院 地域医療福祉連携室々長の高橋です。

私は2001年に二戸病院に赴任し、2011年から地域連携の責任者を務めております。当時すでに「ひめほたるネット」の活動が始まっており、地域連携の初心者であった私も、地域の多職種や介護福祉の皆さまから多くの影響を受け、少しずつこの分野に興味を持つようになりました。やがて「ひめほたるネット」の活動は県内外で高く評価されるようになり、2018年には期せずしてACP関係の学会を会長として盛岡で開催する機会をいただきました。

2019年、新型コロナウイルス感染症が流行し、「ひめほたるネット」や連携室の業務も大きく変わりました。それまで私たちは地域の先頭に立ち、人口減少や高齢化に備える準備を進めていましたが、活動を休止せざるを得ない状況に直面しました。新型コロナウイルス感染症への対応として、感染症対策やリモートでのコミュニケーション技術を身につけましたが、一方で人と人とのコミュニケーションが難しくなり、新たな「顔の見える関係」の再構築が求められることになりました。

最近では、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に和らぎ、「ひめほたるネット」に代わる組織として「NPO 法人カシオペア医療介護支援センター」が設立されました。このNPOは、これまでの活動に加え、連携のICT化を目指し、より効率的な連携体制の構築を目的としています。病院内でも、従来の病院間連携に加え、患者さんやご家族の想いに寄り添った連携を推進しております。

コロナ感染症が収まりつつある現在でも、当地域は全国に先駆けて人口減少や高齢化が進む厳しい状況に変わりはありません。このような中、当院のあり方も変わりつつあります。これまで通り、中核病院として地域の救急医療を支えることに加え、他の役割も担っていく必要に迫られています。具体的には、これまで十分に対応できていなかったレスパイト入院の積極的な受け入れや、在宅や施設で一時的に体調を崩された方の短期間の入院を検討しています。これらの入院において、希望があれば本人やご家族はもちろん、支援をしてくださる多職種の方々とも情報を共有しながら、療養計画の再検討を行います。たとえば、患者さんにとって必要な治療の優先順位を検討します。それにより、ポリファーマシーの改善や通院すべき医療機関を最小限に抑えることが期待できます。最終的には、その患者さんの「看取り」の支援までお手伝いできればと考えています。

今後、県立病院は急性期疾患や急患者の対応、いわば「後ろ向きの対応」に加えて、患者さん本人やご家族からの希望を反映しながら、時間の経過とともにブラッシュアップする「前向きな対応」が求められる過渡期にあると感じています。しかし、これを実現するには周囲の協力と、正確かつ迅速な情報共有が欠かせません。幸い、私たちの地域には「ひめぼたるネット」で培った連携があり、NPOにより整備されるであろうICTシステムを活用して、これを実現できるよう努めてまいります。

～ 二戸病院祭 ～

8月3日、二戸病院祭が開催されました。令和元年以来の通常開催でしたが、天候にも恵まれ、多くの方々にご来場いただきました。

当日は市民公開講座をはじめ、健康に関する展示・体験、消防車や白バイなど緊急車両の乗車体験が行われました。中でも、体験コーナーは人気を集め、妊婦体験、AED講習、認知機能測定などを専門のスタッフと共に体験し、気になることを質問するなど、賑わいを見せていました。また、高等看護学生によるハンドマッサージも常に満席で大好評、屋外で振る舞われた特製かき氷も大盛況でした！



これからも、地域の皆さまに医療や健康に関心を持っていただけるよう、地域に開かれた病院を目指して開催していきたいと思っております。ご来場、ご協力いただきました皆さまへ、心より感謝申し上げます。



編集後記

猛暑も過ぎ、すっかり秋日和ですね。さつまいも好きな私にとっては嬉しい季節です。体調を崩しやすい季節でもありますので、お身体をご自愛ください。